

研究テーマ「コミュニケーション能力の育成」

鳥取県中部中学校英語教育研究会

1 はじめに

本地区は、鳥取県中部地区に中学校英語科教師で構成する英語活動の研究会である。本地区は、周りを田畑に囲まれた自然あふれる環境の中にある。英語塾等もなく、英語を使う環境がほとんどない中で、英語を苦手と感じている生徒も少なくない。そんな生徒たちに英語授業の中で、いかに力をつけていくのかということ、各校が同じ方向で取り組むことによって力を伸ばそうとしている。

2 研究のねらい

研究テーマにあわせて、研究のねらいを次のように定めた。

- ①心を育てるリーディング活動
- ②心を育てるライティング活動

3 研究内容

(1)「心を育てるリーディング活動」

本文をいかに読み取り、内容を把握していくのかということは、本地区の生徒にとって苦手としていることの一つである。しかし、より掘り下げた発問を生徒に与えることで、よりじっくり読もうという態度の育成につながるのではないかと考えた。そこで各校で発問の実践を行い、それを持ち寄った。それぞれの実践を整理することで来年度の研究発表会につなげていきたい。

鳥取県中部地区英語研究会 「教科書を発展させる」実践資料一覧 (3年)

3 年		A Speech and a Game		
	Unit 1	Let's Learn Braille		
	Unit 2	The Shamisen Concert	(P14) どこに間をおいて話しているか。またその理由は？ (三朝中)	(P14) 本文をもとに、Judy と Shinの会話を発展させ、慎の兄の三味線を聞きに行くまでの会話(予定を話し合う会話)を作成する (河北中)
			(P14) この会話の中で一番不自然な文はどれ？その理由は？ → Do you play the shamisen, Shin? 日本人相手でも三味線のことを突然話題に出すのはへん。(河北中)	(P14) 本文をもとに、Judy と Shinの会話を部分的に変えたり、新しい会話文を作る。例: Do you cook, Shin? No, but my mother cooks very well... (東中)
			(P14) Judy はなぜ突然、慎にたいして Do you play the shamisen? と聞いたのだろうか？ (河北中)	
			(P15) レポーターのMria と 彼女にインタビューされている2人の女の子は、コンサート会場のどこにいるのだろうか？ その理由は？ (久米中:伊藤小織)	
		(P15) レポーターのMriaが強調して話している単語やフレーズはどこ？また、このレポートにジェスチャーをつけるならどんなもの？ (三朝中)		
		(P15) 8行目の These young girls have been here since early this morning をレポーターのセリフであることに気づけて日本語にしよう(期末テストに出題) (鴨川中)		
		私の修学旅行		生徒が沖縄修学旅行記事を作成→ALTIに説明→ALTの質問に答える (東郷中:中本 佳代)
Unit 3	Our Sister in Nepal		Unit3学習後、ミーナへのメッセージを英語で書く。ここでは、教科書の内容をより深めたワークシートを通じて、フォスタープランの活動内容をより理解した後にメッセージを書く。(東伯中:伊藤敦)	
Unit 4	An American Rakugo-ka			
Unit 5	Cell Phones For or Against	Unit5を学習する前に、まず生徒自身の形帯電に対する考えを持たせておく。(書く&言う)→その後読みとりに入ると、より深く理解できる。(田尻先生)		
Unit 6	20th Century Greats			

## (2) 「心を育てるライティング活動」

ライティングも本地区の生徒の苦手としているものの一つである。ただ、英文を作ればよいという活動から一歩進めて、本文に付け足す活動を進めたり、書いたものをどのようにしたりするのかということを考えることで、書くことに興味を持たせ、もっと書きたいと生徒に思わせる取り組みを進め、各校の実践を持ち寄ってきた。

2年・・・Talk and Talk もどき、教科書のタスク活動にペアで取り組んだ。

- ★ p40 (Unit 4)  
日本に来る外国人に向けたホームステイガイドブックを作成する。(資料1)
- ★ p41 (Unit 4)  
教科書本文の会話が行われた時間帯を考え、それがわかるような会話を本文の前に1ターン付け足す。(朝?夕方?寝る前?)
- ★ p42, 43 (Unit 4)  
奈々、カルロの相談内容を読み、それぞれ3文以上でアドバイス。(資料2)
- ★ p54 (Unit 5)  
自分のまわりの出来事についての新聞記事を5W1Hを用いて3文以上で書く。(資料3)

## 4 スーパーバイザーの役割

関西大学教授田尻悟郎先生には、授業研究会の講師として参加していただき、講演をしていただいた。研究のための研究という方向に陥りそうになったとき、講師の先生の軌道修正により、生徒をいかに主役とし、主体的に学習させるのかを示唆していただいた。また研究授業の中では、自分の基準を持って得点化してみるなど、研究授業にいかに関与するのかということも考えることができた。

★TASK&評価一覧表★ ～2学期末テスト

ページ	活動内容 (役割交代により加点2倍)	加点	加点
P.38	"My summer vacation" というタイトルで6文以上の英作文を書き、ハマー先生にスピーチをする。(兼スピーキングテスト)	表現 +10	意欲 +5
P.40	教科書本文を参考に、日本に来る外国人に向けたホームステイガイドブックを5文以上で作成する。	表現 +10	意欲 +5
P.41	教科書本文の会話が行われた時間帯を考え、それがわかるような会話を本文の前に1ターンつけたし、ペアで暗唱。(20")	表現 +10	意欲 +5
P.42	奈々の相談内容を読み、3文以上でアドバイスを書き、音読。(30")	表現 +10	意欲 +5
P.43	カルロの相談内容を読み、3文以上でアドバイスを書き、音読。(30")	表現 +10	意欲 +5
P.47	各自、指定された都市の指定された日の天気予報の英語の原稿を3文以上作り、リポーターになりきり録音してビデオ撮影。	表現 +10	意欲 +5
PP.48-49	P.49 Option のうち一つを選び、電話をかけてから切るまでの会話を3ターン以上でノットに書き、音読。(20")	知識 +10	意欲 +5
PP.50-51	この会話がなされている状況を考え、P.51の会話文に2文以上付け加え、それをペアで音読。(30")	表現 +10 理解 +10	意欲 +5
P.52	本文をプリント A～D のいずれかのレベルで音読(又は暗唱)。(30")	知識 +10	意欲 +5
P.53	文中のIをSheに、WeをTheyに、Itをそれが何を指すのかわかるように言い換えてペアで音読。(40")	知識 +10	意欲 +5
p.54	自分のまわりの出来事についての新聞記事を5W1Hを用いて3文以上書き、ペアで音読。(25")	表現 +10	意欲 +5
p.55	Sound Box の早口言葉1～3を2回繰り返して言う。(個人)(25")	知識 +10	意欲 +5

## 5 研究のまとめ

### (1) 成果

- ・カテゴリーを意識した授業展開をすることができた。理解・暗記・入れ替え・ALTとの会話活動という流れを意識した授業ができた。
- ・よい発問をすると生徒が勝手に話し合いを始める。生徒が燃えてやるべきことを教師が先回りしてやってしまったてはいないかということ考えることができた。
- ・教師が無理だと思った段階で生徒の伸びは止まってしまうなどわれわれ教師としての意識の持ち方についても考えることができた。

### (2) 今後の課題

一人一人が「ハアハア言うくらいの」スピードの問題、学習者心理の捉え方の問題、全体発表の持っている意味について考えてみることなど、講師の先生から、それぞれの指導者がより深く考え直さないといけない点を課題として与えていただいた。

## 6 おわりに

いよいよ来年度には県の発表大会が中部地区で行われるが、子供の力につながる活動を中部地区で一体となり、まとめていきたいと考えている。

1 単元名 New Horizon English Course 2  
Unit5 A Park or a Parking Area?

2 単元について

本単元では、公園での自転車事故をきっかけに、新しい駐輪場の是非などの議論がおこる。教科書本文を不明瞭、不自然な箇所などに着目しながら内容を深く吟味し、足りない情報や考えを補う活動や、本文の内容に賛成か反対かを述べ、その理由を説明するなどの活動を行うことをねらいとしている。言語材料としては接続詞 **if, that, when, because** を扱い、より長く複雑な表現を用いての説明が可能となり、表現の幅を広げることができる。と考える。

本学級は5月よりペアを基本とした、等質少人数クラス編成による学習を行っている。毎時間、与えられたタスクにペアで取り組むという、教え合い、学び合いの活動を中心に学習をすすめている。4月のNRTの結果より、「話すこと」が他の領域に比べて低く、表現力をつけるために、教科書本文にセンテンスを補うなど、自由な発想で英文を作る活動を多く取り入れ、ペアで音読する活動に取り組んできた。生徒はユニークな発想を生かして、そのような活動にとっても意欲的に取り組んでいる。しかし、既習の文法事項や語句の定着が不十分で、自らの考えや意見を「正しい」英文で表現することが課題となっており、品詞の確認や語順指導等にも段階的に取り組んでいる最中である。

本単元の指導にあたっては、既習事項の復習に取り組みつつ、自己表現活動に役立つ接続詞の定着を図り、生徒の創造力を生かした表現活動へとつなげ、「情報を伝える」「意見を述べる」力をつけたい。

3 単元目標

《コミュニケーションへの関心・意欲・態度》

自分の意見や、それについて説明を述べる言語活動の中で、接続詞 **if, that, when, because** を積極的に使おうとする。

《表現の能力》

接続詞 **if, that, when, because** を伴った文を用いて、自分の意見や、それについての説明を書いたり話したりすることができる。

《理解の能力》

会話文や新聞記事、投書を読み、要点をとらえて内容を理解することができる。

《言語や文化についての知識・理解》

接続詞 **if, that, when, because** の意味、用法を理解している。

#### 4 指導と評価の計画

時	中心となる学習内容	評価規準	観点				評価方法
			関	表	理	知	
1	if節を用いた文の形、意味、用法を理解し、ペアでパターンプラクティスをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・if節の形、意味、用法を理解することができる。</li> <li>・ペアでのパターンプラクティスに積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	○			○	ワークシート 音読テスト 観察
2	that節を用いた文の形、意味、用法を理解し、ペアでパターンプラクティスをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・that節の形、意味、用法を理解することができる。</li> <li>・ペアでのパターンプラクティスに積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	○			○	ワークシート 音読テスト 観察
3	When節を用いた文の形、意味、用法を理解し、自分の考えを文章にして表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・when節の形、意味、用法を理解することができる。</li> <li>・when節を用いて自分の考えをまとめて書くことができる。</li> </ul>		○		○	ワークシート 音読テスト
4	Because節を用いた文の形、意味、用法を理解し、自分の考えを文章にして表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・because節の形、意味、用法を理解することができる。</li> <li>・because節を用いて、自分の考えをまとめ、書くことができる。</li> </ul>		○		○	ワークシート 音読テスト
5	教科書本文を読み、FAXの内容を理解し、音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書本文の内容について質問に答えることができる。</li> <li>制限時間内に、ジェスチャーをつけてペアで音読できる。</li> </ul>			○	○	Q&A 音読テスト
6 本 時	教科書本文を読み、ペアで不足している情報や考えを補い、会話文を完成させ、音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容を理解することができる。</li> <li>・ペアで文を補い、会話文を完成させて音読できる。</li> </ul>		○	○		T or F ワークシート 音読テスト
7	教科書本文を読み、新聞記事の内容を理解し、音読をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書本文の内容について質問に答えることができる。</li> <li>・制限時間内に、発音や抑揚に気をつけて音読できる。</li> </ul>			○	○	Q&A 音読テスト
8	教科書本文を読み、投書の内容を理解し、それを参考にして、簡単に意見を述べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容を理解することができる。</li> <li>・既習事項を用いて自分の意見を述べるすることができる。</li> </ul>		○	○		Q&A ノート 音読テスト
9	身近な出来事についての新聞記事を5W1Hを用いてペアで作成し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な出来事について情報を出し合い、協力して記事にして発表することができる。</li> </ul>	○	○			観察 ワークシート

## 5 本時の目標

- ・本文の内容を理解することができる。 (理解の能力)
- ・教科書本文の内容に不足している情報や考えを補い、会話文を完成させることができる。 (表現の能力)

## 6 準備

ピクチャーカード、CD、CDプレーヤー、ワークシート、ストップウォッチ、本文プリント

## 7 学習過程

学習内容	生徒の活動	教師の支援 (○) と評価 (*)
1 ディクテーション	○教師の読む既習の文を聞き、正しく書きとる。	○正しく書けていない生徒を把握し、個別に指導をする。
2 60秒クイズ	○1分以内にワークシートの英語を過去形にする。	○本文読解に必要な単語を扱い、ペアでより多くの単語が言えるように励ます。
3 前時の復習 (P 50)	○由香からマイクに送られてきたFAXの内容について確認する。	○本時の本文読解や表現活動に関連する情報を確認する。
4 本文読解 (P 51)	○本文のCDを聞く。その後、教科書を開いて、もう一度聞く。 ○本文についての質問に答える。 (T or F)	○リスニングポイントを与え、それらを意識して聞くように促す。 ○既習事項を用いて、復習も兼ねながら本文読解の足掛かりとする。 *質問に正しく答えられているか (観察)
5 音読練習	○本文の音読練習をする。	○様々なパターンを使って、繰り返し音読をし、発音等の確認をする。
6 本文に2文付け加え、会話を完成させる	○ペアで不足している情報や、不自然な箇所を見つけ、それを補う英文を付け足し、会話文を完成させる。完成したらそれをペアで音読練習し、教師のチェックを受ける。 (20" 以内) ○合格したペアは本文プリントに取り組み、内容や重要語句を確認する。	○既習事項または辞書を活用するよう促す。 ○机間指導で個別に語順等について支援する。 *本文の内容に適した英文を正しく補って、ペアで音読できているか。 (音読チェック、ノート)
8 本時のまとめ	○数組のペアが、自分たちの作った会話文を発表する。	○生徒の作品を互いにシェアし、相互評価する。